

宮永岳彦 何者？

2024. 5 / 18 (土) ~ 12 / 1 (日)

宮永岳彦という画家を知っていますか？油彩画、特に豪華絢爛な美人画が有名ですが、商業デザインや挿絵、風景画、水墨画と多彩に活躍したことはあまり知られていません。

誰しも目にし、使用していた商品の中に宮永のデザインしたものが多数あります。なかでもぺんてるクレヨンのパッケージにある男の子と女の子、初代ロマンスカーのカラーデザインは、どちらも昭和から令和に至る現在まであらゆる世代に親しまれています。

本展では「現代人はいくつものチャンネルを持つべきである」という信念のもと、それを体現した宮永の様々なジャンルの作品をご紹介しますとともに、その人物像に迫ります。

宮永は多面的な表現者として稀有な才能と画家としていくつもの顔を持っていました。器用貧乏と揶揄されながらも生み出された作品は、それぞれの時代や大衆の欲望を明確に表現し、時代を超越して今なお輝きを放っています。

大きく展開する画風の変遷を経て、代名詞となる美人画へ昇華される軌跡を存分にご覧いただき、「宮永岳彦 何者？」の答えを見つけてください。



《ヘチマくん》遠藤周作 装幀原画
1957年



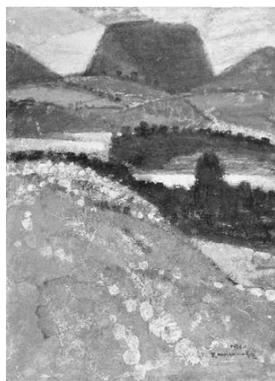
《家の光》
制作年不明



《20世紀》表紙原画
制作年不明



《週刊漫画 TIMES》表紙原画
制作年不明



《箱根》油彩・キャンバス
1960年



秦野市《第18回丹沢まつり》ポスター
1974年



《顔(ポッティチェリ)「ヴィーナス誕生」想》油彩・キャンバス
1983年

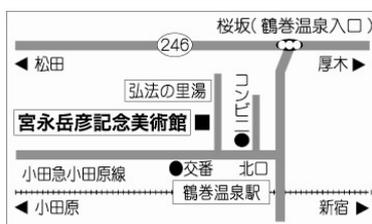
宮永岳彦 (1919~1987)

「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和21年から15年間、秦野市名古屋のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和54年には日本芸術院賞を受賞、昭和61年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅より徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用
40台 / 1時間150円
以降30分ごとに100円